

国語科 学習指導案

〇〇市立〇〇小学校

指導者 〇〇 〇〇

1. 日 時 令和〇年〇
2. 場 所 4年〇組教室
3. 学年・組 第4学年〇組(〇名)
4. 単元名 つながりを見つけながら読み、推理しよう (読むこと)
5. 教材名 「友情のかべ新聞」 (光村図書4年下)

6. 単元目標

- (1) 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くことができる。
[知識及び技能] (3) オ
- (2) 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。
[思考力、判断力、表現力等] C(1) エ
- (3) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
[学びに向かう力、人間性等]

7. 言語活動 名探偵になって推理しよう

8. 教材観

「友情のかべ新聞」は、作家、はやみねかおる氏が4年生に向けて書き下ろした作品である。児童はこの物語を興味深く感じ、何度も本文を読み返しなが、学習を進めるだろう。その理由は2つある。

1つめは、物語がこれまでの教科書にはなかった「ミステリー」要素の強い内容になっていることである。この物語には、「ぼく」の推理につながる手がかりがさりげなく隠されており、児童の注意深い読みを促す構成となっている。「ミステリー」というジャンルの特性上、児童は登場人物の言動や場面の变化から手がかりを集めながら謎を解く楽しさを味わうことができる。

2つめは、語り手である「ぼく」の一人称視点で描かれていることである。「東君」と「西君」は対照的な人物として設定され、その二人の関係は劇的に変化していくのだが、その対照的な二人の関係の変化は、「ぼく」の推理によって語られる。このことにより、児童は「ぼく」の視点に立って物語を体験しながら読み進めることができる。また、「ぼく」以外の人物の心情は「ぼく」の推測によって語られるため、「本当にそうなのか?」「自分だったら…」と、主体的に、また、批判的に読むことになる。

これらの特徴から、本単元では「名探偵になって推理しよう」という言語活動を設定する。「東君」と「西君」の変化に係る「ぼく」の推理を参考にしながら、読者としての「私」の推理を考えるものである。つまり、「『ぼく』はこのように推理しているが、あなたはどうか推理する?」と読み手である児童に投げかけるのである。文章の中にある手がかりをもとに推理するためには、場面のつながりを意識しながら、出来事の順序や因果関係を整理したり、書かれていない部分を具体的に想像したりする思考が必要になる。物語の中で、「ぼく」は「東君」や「西君」の言葉や行動を手がかりにして謎を解いていく。児童は「ぼく」の視点で示される手がかりを探しながら、なぜ「東君」と「西君」が仲良くなったのかについて自分なりに推理していくだろう。

このようなことから、本教材は、「登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像する」資質・能力を育むのに適した教材であると言える。

9. 児童観 略

10. 指導観

本単元では、「名探偵になって推理しよう」という言語活動を設定する。単元の前半で推理するための材料を集め、単元の後半でそれらの材料を用いて推理を組み立てる、というのが大きな流れである。第1時から第3時までは、物語の内容を把握するために、登場人物の行動や気持ちなどを捉える時間（構造と内容の把握）、第4時から第7時までは、登場人物の気持ちの変化や性格を具体的に想像したり、それに対する自分の考えを形成したりする時間（精査・解釈、考えの形成）、第8時は自分の考えをまとめたものを基に、友だちと共有する時間（共有）とする。

第1時では、これまでに読んできた物語を振り返り、どのような読み方をしてきたかを思い出す時間を設ける。その後、教材を範読し、初発の感想を交流させる。その際には、これまでの物語との違いに着目させ、「ミステリー」ならではの面白さについて考えさせ、物語への関心を高められるようにする。そして、4年生で学習した3つの教材で学んだ物語の読み方を想起し、本単元でもそれらを活用しながら読むことを確認する。最後に、単元のゴールを共有し、今後の学習の見通しをもつことができるように学習計画を立てる。

第2時・第3時では、物語の全体像をつかむことをねらいとして、設定や登場人物を確認したり、登場人物の行動や気持ちを時間軸（曜日ごと）で整理したりする活動を行う。この「なぜ」を解く過程で、児童が楽しみながら文章を読み、主体的に推理することができるようにするために「探偵手帳」（ワークシート）を活用する。この手帳に、自分の気付きを記録していき、最後は「私」（自分）の推理をすることを伝え、次時につなげる。

家庭学習として、「曜日ごとの出来事」「登場人物の人物像」「登場人物どうしの相関関係」などを整理し、「探偵手帳」に記入するという自主学習の課題を出す。児童は、第1時から第3時までの板書（ICT端末で配付）や、自分の考えを書き込んだ本文をもとに、これまでの学習内容を自分で整理する。このような授業と家庭学習の往還は、既習の教材「ごんぎつね」でも行った。その際は整理する観点のみを示し、自由にまとめるよう児童に伝えたため、難しさを感じる児童もいた。しかし、好事例をクラスで共有することで、それを参考にしてまとめる児童が増えてきた。今回は自由記述ではなく、枠のある「探偵手帳」を活用するため、前回よりも取り組みやすいと思われる。ただし、困っている児童には、学校でいねいに支援する。

第4時～第6時では、推理に必要なと思う手がかりを曜日ごとに集め、それに対応する自分の推理を「探偵手帳」に書き記していく。その際、「どうしてそう思ったのか」という理由も記すと、考えがしっかりすることに気付かせる。また、同時に本文のどの部分からそう思ったのかという根拠も書くように促す。授業の終わりには振り返りの時間として、「探偵手帳」を整理する時間を設ける。推理を共有する中で、他者の考えに触れながら、共感する内容を青鉛筆で追記することで、自分の推理を深めていくことができるようにする。こうした活動を通して、児童が主体的に推理に取り組めるようにする。

第7時では、本文を読み返したり、これまでに自分が書いてきた「探偵手帳」を見返したりしながら、「私」（自分）の推理をする。推理の文章を書く前に、教科書に書かれている「ぼくの推理」の表現を確認し、「時系列に整理されていること」や「登場人物の人物像にも触れていること」に気付かせる。こうした観点を意識することで、児童自身も自然に「場面の移り変わり」と結びつけて考えることができるようになる。また、書くことが難しい児童には、ICT端末で発話を録音し、提出させる。授業の最後には振り返りとして、発表された友だちの推理の中で「なるほど」と思ったものと、その理由をICT端末で記入し、提出させる。

第8時には、全員の推理をICT端末で全体共有し、「なるほど」（納得度）とその理由を書いたカードを送り合う。カードが全員に行き渡るよう、まずは同じ班のメンバーに送ることを確認してから活動を始める。授業の最後には、単元の振り返りとして、「ミステリー」の楽しさや物語の読み方について新しく知ったことや考えたことを交流する。これまでの読み方を振り返りながら、読みの視点を広げ、次の教材でも活かしていけるようにしたい。

プラスアルファの活動として、図書室の時間を活用して、「ミステリー」を読む活動を行う。あまり主体的に読書しない児童も楽しめるように、はじめは学校図書館司書に、4年生にも読みやすい作品を選んでもらう。児童は、単元で学んだ物語の読み方を生かして作品を読み、読んだ本のおもしろさを感想カードに書いて紹介し合う。このように、教室での学習と図書室での学習とを往還することで、言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする姿勢の涵養につなげたい。

11. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。(3)オ	「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりや結び付けて具体的に想像している。C(1)エ	登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けながら粘り強く具体的に想像しようとしている。

12. 単元の指導と評価計画(全8時間・本時5/8時間)

時	学習内容	学習評価			
		評価(◎記録に残す評価 ○指導に生かす評価)			評価規準・評価方法等
知技	思判表	主体			
1	<ul style="list-style-type: none"> ●既習の物語の学習を想起する。 ●「友情のかべ新聞」の範読を聞き、感想を書く。<u>構造と内容の把握</u> <ul style="list-style-type: none"> ・範読を聞きながら、わからない言葉や気になる言葉や文に線を引く。 ・上記を共有する。 ・「おもしろいと思ったところ」や、「今までの物語文と違うところ」という観点で感想を交流する。 ●単元のめあてと学習計画を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・4年生で読んだ物語を振り返りながら、「友情のかべ新聞」をどのように読んでいくかについて考える。 ・単元の学習活動の見通しをもつ。 	○			【知・技】 <行動観察・探偵手帳>
2・3	<ul style="list-style-type: none"> ●登場人物の人物像や関係性を確認する。<u>構造と内容の把握</u> <ul style="list-style-type: none"> ・主要な登場人物の性格や特徴等を本文から探し、共通点や相違点を考え、相関図をつくる。 ●曜日ごとに起こった出来事を整理する。 <ul style="list-style-type: none"> ・時間軸で整理するよう促す。 ●「ぼく」の推理を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・「ぼく」がどのように推理したのか解説させる。 ・「ぼく」の推理について、納得するところや腑に落ちないところを交流し、次時につなげる。 	○			【知・技】 <行動観察・探偵手帳>
	<ul style="list-style-type: none"> ●推理をするための材料を集める。<u>精査・解釈</u> <ul style="list-style-type: none"> ・推理の手がかり(根拠・事実)を探し、探偵手帳に書き込む。 				【思・判・表】 <行動観察・探偵手帳>

4・5 (本時) 6	<ul style="list-style-type: none"> ・集めた手がかりに対応するように、自分の推理を探偵手帳に書き込む。 ・根拠や理由とともに自分の推理を説明する。 <p>●自分の推理を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちの推理で、なるほどと思ったものを青で追記し、自分の推理に生かせるようにする。 		○	○ ◎	<p>【主】</p> <p><行動観察・探偵手帳></p> <p>自分の推理がより説得力を増すように、授業でわかったことや友だちの考えを追記したり、書き直したりしながら、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けながら粘り強く具体的に想像しようとしているかの確認。</p>
7	<p>●自分の推理を書く。</p> <p>精査・解釈、<u>考えの形成</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ぼく」の推理の書かれ方を確認する。 ・曜日ごとの時系列でつながりが合うように推理するよう促す。 ・登場人物の性格や状況を考慮して推理するよう促す。 ・複数の場面や叙述を結び付けて推理するよう促す。 <p>●自分の推理を解説する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数人の児童に自分の推理を解説させ、次時へつなげる。 <p>●自分の推理を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表した児童の推理の「なるほ度」と、その理由を ICT 端末で提出する。 		◎	◎	<p>【思・判・表】</p> <p><行動観察・探偵手帳></p> <p>自分の推理を、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像しながら記述しているかの確認。</p> <p>【主】</p> <p><行動観察・探偵手帳></p> <p>自分の考えを書くときに、粘り強く根拠や理由を探しながら、推理しようとしているかの確認。</p>
8	<p>●自分の推理をICT端末で共有し、納得具合を「なるほ度」で表し、その理由を、伝え合う。</p> <p><u>考えの形成</u>、<u>共有</u></p> <p>●「友情のかべ新聞」を読む中で気付いた「物語の読み方」について交流する。</p> <p><u>単元のまとめ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の「たいせつ」を活用し、身に付けた資質・能力を一般化する。 		◎		<p>【思・判・表】</p> <p><行動観察・探偵手帳></p> <p>推理した内容について、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に検証しているかの確認。</p>
9	<p>●図書時間を活用して「ミステリー」を読み、感想を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書名とおもしろさをカードに記録し、みんなに紹介し合う。 	◎			<p>【知・技】</p> <p><読書カード></p> <p>「ミステリー」に親しみ、読書の幅を広げる記述の確認。</p>

13. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・推理の手がかりとなる「事実」を基に、自分の推理を「探偵手帳」にまとめることができる。
- ・友だちとの交流や板書の確認を通して、推理するための材料を集めようとする。

(2) 本時の評価規準

- ・推理の手がかりとなる「事実」を基に、自分の推理を「探偵手帳」にまとめている。【思・判・表】(指導)
- ・友だちとの交流や板書の確認を通して、推理するための材料を集めようとしている。【主】(記録)

(3) 本時の判断基準

観点	A 十分満足できる姿	B おおむね満足できる姿	支援が必要な児童への手だて
思判表	推理の手がかりとなりそうな文を示し、それを基にした自分の推理を多面的な理由と共に「探偵手帳」に書いている。	推理の手がかりとなりそうな文を示し、それを基にした自分の推理を理由と共に「探偵手帳」に書いている。	「探偵手帳」への記述が進まない児童には、想像しやすいような個所をいくつか提示する。
主体	友だちとの交流や板書の確認を通して、自分が納得した推理や考えを青鉛筆で複数加筆し、第7時に行く「ぼくの推理」の記述に向けて、粘り強く材料を集めようとしている。	友だちとの交流や板書の確認を通して、自分が納得した推理や考えを青鉛筆で加筆し、第7時に行く「ぼくの推理」の記述に向けて、粘り強く材料を集めようとしている。	・数人の児童に、追記した個所とその理由を説明させることで見通しをもたせる。 ・推理の手がかりとなる「事実」と、それに対応した推理についてまとめてある黒板を見返して考えるように促す。

(4) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	◇指導上の留意点 ☆支援が必要な児童への手だて	評価規準 (評価方法)
5分	◆前時までの学習を振り返る。 ・前時の「探偵手帳」の内容を確認する。	◇前時の内容とつなげて考えさせるために、数人の「探偵手帳」の内容を紹介する。	
30分	◆水曜日～金曜日について考える。 ・黙読する。 ・班で、考えを交流する。 ・数人の児童に、推理と結びつきそうな「事実」を発表させる。 ・推理の手がかりとなる「事実」を基に、自分の推理を「探偵手帳」にまとめる。 ・推理を交流する。	◇水・木曜日と金曜日に分けて考えさせる。 ◇書き出す前に、見通しをもたせるために、線を引いた箇所と、想像したことを確認する。 ☆記述が進まない児童には、想像しやすいような個所を提示する。 ◇場面を結び付けて考えさせるために、交流時の発表を事実(根拠)→推理(考え)→理由の順で尋ね、「どうしてそのように推理をしたのか」を説明させる。また、発表を聞いている児童には、発表者が理由として考えた根拠になる文が、本文のどこに書いているのか確認しながら聞くように促す。	【思・判・表】 <行動観察・探偵手帳> 自分の推理を、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像しながら記述しているかの確認。

		<p>☆教科書をめくりながら場面を結び付けるのが難しい児童には、曜日ごとに分けたり、登場人物を色分けしたりした本文シート(ICT端末)を用意しておき、適宜活用させる。</p> <p>☆机間指導の際、記述が進んでいない児童には、ここで出てきた推理と結びつきそうな「事実」について、自分の推理を書くように促す。</p> <p>◇自分の推理と友だちの推理との共通点や相違点を意識しながら交流をしたり発表を聞いたりすることで、自分の推理をより説得力のあるものにするように促す。</p>	
10分	<p>◆振り返りとして「探偵手帳」を整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青鉛筆で追記する。 ・次時の見通しをもつ 	<p>◇本時の学びをもとに、自分の推理へ向かって自己調整するために、必要だと思ふ情報を青鉛筆で加筆するよう促す。</p> <p>☆数人の児童に、追記した箇所とその理由を説明させ、振り返る見通しをもたせる。</p> <p>☆推理の手がかりとなる「事実」と、それに対応した推理についてまとめてある黒板を見返して考えるように促す。</p>	<p>【主】</p> <p><行動観察・探偵手帳></p> <p>自分の考えを書くときに、粘り強く根拠や理由を探しながら、推理しようとしているかの確認。</p>

(5) 板書計画

金曜日	木曜日	水曜日
<p>西君が東君に「これ、おもしろいんだぜ。」と、本をかした。</p> <p>推理メモ</p> <p>顔をよせて何かを話し合っている。</p> <p>推理メモ</p> <p>赤や青の油性ペンをさわろうともしなかった。</p> <p>推理メモ</p>	<p>東君が西君に、「おまえのシュート、なかなかだな。」と声をかけた。</p> <p>推理メモ</p>	<p>推理メモ</p> <p>西君が先生の方を見ていると、東君が「こっち来いよ。」と、そでを引っぱった。</p> <p>推理メモ</p> <p>東君が職員室の方へ行こうとすると、西君もついていく。</p> <p>推理メモ</p>
<p>放課後</p> <p>新聞を右と左の半分に分けて…</p> <p>新聞のはしから、けいじ板のシートに青いよごれがついている。</p> <p>新聞をはがした。</p> <p>推理メモ</p>		<p>④ すい理するための材料をあつめよう</p>

手がかり

西君が先生の方を見ていると、東君が「こっち来いよ。」と、そでを引っぱった。

推理メモ



【推理例①】

西君は、先生に自分だけあやまろうとしていた。
東君は、じゃまをしていた。

(理由…P67いつも相手のせいにしていたから、
今回も西君は東君のせいにしようとしている。
それを感じ取ったから、東君もそのじゃまをした。)

【推理例②】お互い、かべをよごしたことが、
先生にバレていないかを心配している行動。

(理由…P68「いつも以上にしかられている。」と書いていたから、次は、もっとおこられるのが分かっている。だから、西君は不安になって先生の顔色を見ていた。もちろん東君も同じように気になっているので、先生に「ぼくたちは仲よくなったよ」ってところを見せようとして、わざと西君のそでを引っぱって、二人でいっしょに遊んでいるところを先生に見せていた。)